

1 学期終業式講話

おはようございます。本日をもちまして1学期を終了いたします。

この1学期を振り返ってみていかがだったでしょうか。南稜祭文化の部を頂点として様々な取組がありましたが、部活動三昧だった人、3年生になった勉強漬けになった人、一方で友達関係に苦しんだ人、親子関係に苦しんだ人、色々あったと思いますが、悩んだ分、苦しんだ分、必ずやその後の人生に生きてきます。悩みあって成長できる証になります。自分の居場所づくりで悩んだ方は是非そのことを頭に入れて前を向いてほしいと思います。

さて、この夏休みは3年生にとっては進路決定の時期となります。進学も就職もそうですが、大学でしたら総合選抜型の人はいままで本校で学んだ市役所プランが面接の鍵となってきます。就職もしかりで、本校で探究学習を行ってきたことはこの面接時に大きくアピールできる素材となります。

市役所プランはただ単に富士市の問題点を探して、それを解決していただくだけではなく、主権者として自分に置き換えて考える機会となります。どうすれば富士市が発展できるかとか、どうすれば富士市に多くの人に来てくれるかとか…、他の市町や県外の方は、もし自分の街だったらどうするかを考えてほしいのです。

そして皆さんの友達が来たら、この富士市のどこへ案内するかです。逆に富士市ではない人、例えば県外から来ている人は、この夏休みに仲間が遊びに来ると言ったらどこへ案内しますか。

私でしたらやはり日本一高い山のある富士山と日本一深い海のある駿河湾というロケーションの中で、富士山をどうアピールするかを考えます。以前アメリカにホームステイした時に、日本の住所を聞かれた際、「near Mt. Fuji」と答えたことがあります。私の家は伊豆にありますが、日本列島からみれば近いのではと思い、そう伝えたのですが、やはりアメリカ人は富士山をよく知っていて、リアクションがあったことを覚えています。

36HRの皆さんは9月初めに富士山に登ります。私は中学校2年生の時に初めて富士山に登りました。新5合目までバスで行き、そこから登る前に下界を見たところ雲海が一面に広がっていて、その風景に感動しました。天上の世界がそこには展開していました。

ですから私でしたら富士山かなと思った次第です。

そして、この富士山に関連するものとして、「竹取物語」があります。これは平安時代の日本に現存する最古の物語で、皆さんでしたら「かぐや姫」の方が通っていると思います。昔々ある所にお爺さんとお婆さんがいて、ある竹が光っていたのでお爺さんが切ったところ、女の赤ちゃんでしたという話から始まります。そんなことはあり得ないのですが、最後は月からお使いが来て、月に帰っていくという話です。なんだエイリアンだったのか、宇宙人だったのかと思ってしまいますが、おとぎ話ですので、最後は悲しい別れでお話は終わっています。

ただこのお話は富士では違います。かぐや姫は月に行かず、富士山を登って消えたという

富士山伝説が残っています。これはこの地方独特のもので、これをもっと宣伝してもいいのかなと思います。かぐや姫伝説のお話をもっと広めたり、商品開発に結びつけたら面白いのにとったりしました。

是非、2年生においてはこの夏休みに市役所プランで色々と調べて、考えてほしいと思います。

そして3年生は進学、就職で新たな土地に住むことがあろうかと思いますが、この富士市で学んだことは忘れないでほしいと思います。私は高校卒業後、東京と京都に住みました。いずれも夏は暑く、冬は寒い所で、私にとってつらかったのは、水の味が静岡県より劣るという気がしたことです。このようなことを言うのは失礼かと思いますが、やはり伊豆の水の方がおいしい気がして、就職するなら静岡県に帰ってこようと考えました。

そろそろ時間が来ましたので、最後に皆さんには2つのことをお伝えします。

一つは大変暑い夏になりそうです。先日の野球応援も大変暑かったです。このため熱中症予防のために、調子が悪くなったらいつでも顧問や関係者に伝えてほしいと思います。暑さ対策を万全にしてください。

二つ目は、進学や就職で勉強する3年生は学校をおおいに利用してください。1・2年生も同様です。なかなか家では勉強で集中できない人もいます。学校を利用して勉強してください。充実した夏休みになることを願います。

以上で校長講話とします。

(令和6年7月23日、終業式)